

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ

新潟県十日町市、津南町 他

NPO法人越後妻有里山協働機構

手づくり郷土賞

講評

一般部門

大賞部門

資料集

越後妻有地域は世界でも有数の豪雪地であり、「棚田」に代表される日本の原風景を数多く残す自然豊かな地域である一方、過疎・高齢化が進んでいる地域でもあります。

十日町市・津南町（当時は十日町市等の6市町村で構成される十日町広域行政圏）では、里山の自然と現代アートをテーマに地域活性化を目指す「越後妻有アートネックレス整備構想」を策定し、アートによる地域づくりの成果を3年に1回発表する「大地の芸術祭」を平成12年からスタートさせました。

その後、活動の発展を背景に芸術祭の自立に向けて地域内外の協働者らにより「NPO法人越後妻有里山協働機構」が設立され、空き家や廃校、棚田等の地域に由来する魅力や課題をアートによって掘り起こし、外に向かい発信するというユニークな地域活性化事業に取り組んできました。「大地の芸術祭」の作品制作は、アーティストと地域住民、そして主に首都圏から来るサポーター（こへび隊）等が協働で行い、地域住民との交流・親睦が深まり、参加者も年々増加しています。また、「大地の芸術祭」をきっかけに、集落の伝統行事や祭事、田植え

や稲刈りなどの農作業、除雪ボランティアへと交流の場が展開し、現在では通年的に交流が行われるようになっています。

「大地の芸術祭」は、これまでに4回開催され、近年では約37万5千人が訪れています。また、東アジアやオーストラリアなど海外との国際交流も始まるなど、アートをきっかけとした地域活性化事業は、農村部における交流人口を増やし、地域の生活や人々そのものの魅力を高めています。



photo by ANZAI
supported by Benesse Corporation

作品例① 棚田とアート作品の融合



photo by Takenori Miyamoto + Hiroaki Seno

作品例② 閉校となった小学校をアート作品に



越後妻有地域に数多く存在する日本の原風景「棚田」



photo by kazuo kawase

作品制作作業を行う地域住民とこへび隊



国際交流（オーストラリアハウス）

- ◆所在地
新潟県十日町市松之山 他
- ◆活動内容
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ：
2000年、2003年、2006年、2009年、2012年（予定）
- ◆活動主体名
NPO法人越後妻有里山協働機構
(<http://www.echigo-tsumari.jp/>)
- ◆連絡先
NPO法人越後妻有里山協働機構 十日町市松代3473番地1
025-597-3770

